

スチュワードシップ活動報告書（2022年）の公表について

日本生命保険相互会社（社長：清水博、以下「当社」）は、「スチュワードシップ活動報告書（2022年）」を以下の通り公表しましたので、お知らせします。

[スチュワードシップ活動報告書（2022年）]

URL https://www.nissay.co.jp/kaisha/otsutaeshitai/shisan_unyou/ssc/

この度公表した「スチュワードシップ活動報告書（2022年）」では、2021年^{※1}の取り組み結果と2022年^{※2}の取り組み方針を記載しています。

※1 対象期間：2021/7～2022/6

※2 対象期間：2022/7～2023/6

当社は長期投資を行う機関投資家として、環境・社会の要素も考慮に入れた建設的な対話を通じて、投資先企業の中長期的な企業価値向上および「安心・安全で持続可能な社会」を実現することを目指しています。今回特にお伝えしたいポイントは以下の通りです。

【論点解消の進展】

複数年にわたり議決権行使に係る重要な論点のある企業と対話を継続し、2017年に議決権行使に係る重要な論点があった先については、5年累計で約7割の論点が解消しました。うち株主還元やガバナンスは7割超、収益性（低ROE）は5割の論点が解消しています。

今期は、特に収益性（低ROE）の論点に関する対話を強化してまいります。

【E（環境）・S（社会）などのサステナビリティに関するテーマ】

近年、企業・投資家ともに意識が高まっているE（環境）・S（社会）テーマの対話を強化し、投資先のサステナビリティについての取り組みを後押ししています。

<E（環境）>

当社ポートフォリオの温室効果ガス排出量の8割を占める排出量上位先等74社と気候変動を主要テーマとする対話を行い、情報開示充実を要望しました。結果として同74社全社が対応済となっています。

今期は、排出量上位先等には「2050年ネットゼロに向けたロードマップの策定・開示」を新たに要望してまいります。

<S（社会）>

あらかじめ当社で整理した業種毎に重視するテーマや世の中の動向等も踏まえ、対話を実施しています。

今期は、特に人的資本とサプライチェーン管理に関する対話を強化してまいります。

【事例開示の更なる充実】

当社のスチュワードシップ活動の取り組みや考え方をご理解いただくために、対話や議決権行使の事例を公表していますが、今回、論点解消率が伸びた収益性の論点や、E(環境)・S(社会)のうち気候変動、人的資本、サプライチェーン管理に関する対話事例を複数追加し、153 事例(対前年+29 事例)に拡充しました。

当社は、責任ある機関投資家として、今後も企業の持続的な成長をサポートし、日本経済・社会の健全な発展に資する投資を心掛けてまいります。

以 上

2022-1809G, 広報部